宮島聖会 2023
主題「信仰によって生きる」
聖書**「福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」**（ローマの信徒への手紙 1 章 17 節）

# 聖会Ⅰ「静まり、聞く」

（マルコによる福音書 4 章 35～40 節）

**◇はじめに**

**1. 何によって生きているのか？**
パンによって生きられると思っている。
パンだけでは足りないとしても、健康、友達、やりがいのある仕事等々があればと。
**「人はパンだけで生きるものではない。**
**神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」**（マタイ 4：4、申命記 8：3）
←本気で信じているか。ほんとうに神の言葉で生きているか。

**2.「信仰によって生きる」**（ローマ 1：17）
「福音」の説教において、人間が語るだけでなく、神の「啓示」がなされる！
神があらわしてくださるのは「神の義」＝神との正しい関係、神との交わり
いつも新しく啓示し続けていてくださる。
←わたしたちは罪を赦され、神の子とされ、神と交わりをもって生きる。
神との交わりは「信仰から信仰へ」、ただ信仰のみによって受け取られる。
⇒神との交わりに入れられた者は、いつも新しく神と出会い、交わりをもち続ける。
　まさしく、神の言葉によって、信仰によって生きる。

**①静まる**

**1. 静まって神を知る**（詩編 46：11）
わたしたちの心は騒ぎ立っている。思い悩みであふれかえっている。
器に物がいっぱい詰まっていたら、それ以上入れることはできない。心も同じ。
静かさが必要。神のために場所を空けることが必要。時間を取り、心を明け渡す。

**「静まれ、私こそが神であると知れ。」**（聖書協会共同訳）
静かでないと、神が神であることを忘れ、神でないものに頼る。

お金に、有力者に、知恵に。

**「やめよ。知れ。わたしこそ神。」**（10 節。新改訳 2017）
どうしたら静かになれるのか。まず「やめる」。手を放す。
つぶやくのを。うたがうのを。戦うのを。神なしに生きるのをやめる。

**「力を捨てよ、知れ。わたしは神。」**（新共同訳）
元の言葉は「捨てる、放棄する」を意味する。
今していることを「やめる」だけでなく、自分に頼ることもやめ、自分のものをすべて手放す。

**2. 主イエスと新しく出会う**（マルコ 4：35～41）
わたしたちの内にも外にも嵐がある。
わたしたちの舟は波をかぶり、水浸しになり、沈みかけている。
「わたしたちがおぼれても（または「滅んでも」）かまわないのですか。」（38）
主イエスは風を叱り、湖に、**「黙れ。静まれ」**と言われる。（39）
すると、大いなる凪、大いなる静けさが生まれる。
←わたしたちは自分で静かになることはできない。
　主イエスに「黙れ。静まれ」と言っていただかなくてはならない。
主イエスは言われる。**「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか。」**（40）
主イエスはわたしたちの姿に驚いておられる！
←わたしたちは「信仰によって生き」てはいない。神との交わりに生きてはいない。
　だから恐れる。滅んでしまうと思う。
わたしたちは大いなる恐れを恐れる。**「いったい、この方はどなたなのだろう。」**（41）
←主イエスを知っているつもりでいたが、わかっていなかった。
　今、新しく出会うような思いで、主イエスの前に立つ。
　生きておられる主イエスに直面する。この方と共に生きる。

**②聞く**

**1.「聞け！」**（申命記 6：4～5）
静かになって神の声を聞く。
神は「ほえたけり、声をとどろかされる」（アモス 1：2）。
また「静かにささやく声」（列王記上 19：12）でお語りになる。

何とお語りになるのか。「聞け！」と始まる御言葉がある。
**「聞け、イスラエルよ、我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」**

←「心を尽くし」＝「心のすべてをもって with all your heart」
　「唯一」と「すべて」が対応している。お一人だから、心を全部使ってしまえる。
「あなたの心のすべて、あなたの命のすべて、あなたの力のすべてをもって主を愛しなさい。」
←心のすべてを傾けた愛を求めるのは、神が心のすべてを傾けて愛しているから。
　「あなたの心が全部欲しい」を神は言われる。これは愛の言葉。
　この愛の言葉を「聞け！」
　聞いているか？　受け取っているか？

**2.「僕は聞いております」**（サムエル記上 3 章）
サムエル記と列王記は一体的（ギリシャ語訳聖書では両方とも「列王記」）。
全体がイスラエルの王たちの書。
しかし、最初の王（サウル）の話を始める前に、まず王を立てる預言者（サムエル）が登場しなければならない。
＝王は最高位にいない。王の上に神がおられ、神の言葉がある。
　神の言葉は王を立てることができ、また王を退けることができる。
　預言者は神の言葉に仕える。まず預言者が登場しなければならない。

「少年」といっても幼子ではない。神殿で寝起きし「主に仕えて」いる（1）。
サムエルは自分の名を呼ぶ声を聞く。すぐに祭司エリのもとに走っていく。
三度同じことが繰り返される。
＝サムエルはエリ以外のお方が呼んでいる可能性をまったく考えていない！
**「サムエルはまだ主を知らなかったし、主の言葉はまだ彼に示されてはいなかった。」**（7）
≒牧師として説教していても、主を個人的に、また人格的に知ってはいないし、生きておられる主の生きた語りかけを受け取っていない、ということがありえる！

祭司エリはサムエルに、神と対話することを教える。
**「主よ、お話しください。僕は聞いております。」**（9）
＝静かになった後のわたしたちの祈り。聖書を開くとき。説教を聞くとき。
　生きておられ、新しいことをお語りになる主の前に立つ。

祭司エリはサムエルに、説教することを教える。
＝神の語りかけを聞いたならば、それを次の人に伝える使命を与えられている。
「お前に何が語られたのか。わたしに隠してはいけない。」（17）
神が告げたのはエリの家に対する裁きなので、エリには言いにくい。
しかし、神が告げたままを、減らさず、薄めず、そのまま語らなければならない。
→神の言葉はそのようにして広がっていく。

わたしたちは命の水が流れていく通路になる。

**3. 聞くことから信仰へ**（ローマ 10：17）

**「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」**

伝えてもらわなければ、信仰を持つことはできない。それもそう。
⇔しかし、「伝えられることにより」ではなく、「聞くことにより」と言われている。
宗教改革者ルターはここを「信仰は説教から来る」と訳した。それもそう。
⇔しかし、「説教から」ではなく、「聞くことから」と言われている。
「説教を聞くことによって」ではなく、「説教を通して主の声を聞くことによって」。
だから、「しかも、キリストの言葉を聞くことによって」と付け加えられている。
「キリストについての言葉」ではなく、「キリストご自身の語りかけ」を聞く。
呼ばれたから、返事をする。語りかけられたから、答える。
愛が告げられている。それを受け取って、わたしたちも愛をささげる。

**〇祈り**

主よ、騒ぎ立つわたしたちの心に「静まれ。黙れ」とお語りください。
そして、あなたの御声を聞かせてください。あなたの御声がわたしたちの存在の隅々にまで響き渡り、魂を満たしてくださいますように。
アーメン

宮島聖会 2023
主題「信仰によって生きる」（ローマの信徒への手紙 1 章 17 節）
聖書「福音には、神の義が啓示されていますが、それは、始めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」

（ローマの信徒への手紙 1 章 17 節）

# 聖会Ⅲ「祈り、変えられる」

（マタイによる福音書 26 章 36～46 節）

## ③祈る

### 1. 聞いたから祈れる

祈ることはたやすいか。
だれでも祈り心を持っており、目を閉じ、手を組めば、祈り出せるのか。
そうやって祈りだしたとき、だれに祈っているのか。独り言になっていないか。
主イエスがある所で祈っておられた。
主イエスの祈りに触れた弟子が、思わず主イエスに願った。
「わたしたちに祈ることを教えてください。」（ルカ 11：1）
←弟子たちも祈っていたはず。
　しかし、わたしはまだ一度も祈ったことがなかったのでは、と思った。

「神よ、わたしは一日の初めにあなたに呼びかけます。
わたしを助けて、祈ることができるように、
そしてわたしの思いをあなたに向かって集められるようにしてください。
わたしは、一人ではそれができませんから。…」
（ディートリヒ・ボンヘッファー「朝の祈り」（『抵抗と信従』）

「わたしの祈りがどんどん集中したものとなり、内的なものとなるにつれて、
わたしはどんどん語るべき言葉をなくしていきました。
とうとうわたしは、まったく静かになってしまいました。

わたしは語ることとは正反対のものに、
もしかすると、語ることより大いなるものになりました。
わたしは、聞く者になったのでした。

初めわたしは、祈ることは語ることだと思っていました。

しかしわたしが学んだのは、祈ることは沈黙することであること、
いやただ沈黙するだけでなく、聞くことであるということでした。

そうです。祈るとは、自分が語るのを聞くことではありません。
祈ることは、静かになること、静かでいること、そして待つことです。
神がお語りくださるのを聞くまで。」

（セーレン・キェルケゴール）

人と話す時も、相手の言葉を聞かずに口を開けば、独り言にしかならない。
語りかけられたから答えられる。神の言葉を聞いたから、神に祈ることができる。

2. わたしたちの礼拝

「（新しい礼拝堂を聖別することで、）他のことではなくて、ただ一つのことだけがここで行われるようにと、この家を整えることになります。すなわち、わたしたちの愛する主ご自身が聖なる御言葉を通してわたしたちにお語りくださり、またわたしたちの方でもわたしたちの祈りと賛美を通して主にお語りすること、このことだけがなされるようにです。」

（マルティン・ルター「トルガウ説教（献堂式の説教）」）

礼拝はこのことだけをする：〔神の語りかけ〕と〔わたしたちの応答〕
（これとは違う礼拝の形もある。たとえば、聖餐を中心とした儀式による礼拝。）
→わたしたちの礼拝は、この二つを繰り返すことで成り立っている。
　神の招きを聞いて、神の栄光をたたえる。
　聖書朗読や説教を聞いて祈り、賛美し、信仰告白する。
　説教と聖餐を通して主イエスを与えられて、自分自身をお献げする。
⇒主イエスとの生きた交わりが生じていることが決定的に重要。
　主イエスご自身から、自分自身が語りかけられているか。
　福音を、すなわち、赦しと慰めと希望を受け取っているか。
　福音に対して心が共鳴し、心の深いところから応答が引き起こされているか。
　「わたしの魂よ、主をたたえよ。
　わたしの内にあるものはこぞって、聖なる御名をたたえよ。」（詩編 103：1）

3. 祈りの循環

祈り＝礼拝。礼拝＝祈り。生きておられる主イエスとの交わり、対話。
主日礼拝の祈り：賛美と頌栄、罪の告白、聖霊を求める祈り、願いと執り成し、
　　感謝と献身
→教会での祈りを、生活のただ中で祈っているか？
　たとえば、一日の終わりにその日の思いと言葉と行いを御言葉の光で見、吟味し、
　悔い改めているか。

→日々の生活の祈りを持ち寄って教会の祈りが形作られているか？
　たとえば、心にかかって祈り続けていることが集められて、教会の祈りになっているか。
⇒教会からそれぞれの生活へ、それぞれの生活から教会へ、祈りの循環を！

**④変えられる**

**1. 悔い改め**（ヨハネ 20：11～18）
主の言葉はわたしたちをそのままにしない。わたしたちを変えようとしている。
最初に与えられるのが悔い改め＝回心＝方向転換。

イースターの朝になってもマリアは墓で主イエスを探している。
「生きておられる方を死者の中に捜す」（ルカ 24：5）ことになっている。
←わたしたちが聖書を読む時も、2000 年前の主イエスのお姿を探していないか。
「後ろを**振り向く**と、イエスの立っておられるのが見えた。」（14）
主イエスは、マリアが探しているのとは違うところにおられる。
向きを変えて主イエスを見る。
しかし、どれだけ向きを変えても、主イエスの方を向くことができない。
←わたしたちは自分で回心すること、主に立ち帰ることはできない。
主イエスが「マリア」と言われる。わたしたちの名を呼んでくださる。（16）
「彼女は**振り向いて**、ヘブライ語で、『ラボニ』と言った。」
すでに向きを変えたつもりでいても、見当違いの方向を向いていた。
もう一度振り向く。
主イエスの声がした方を向く。そうやって初めてほんとうに向きを変えられる。

**2. 聖化**
キリスト者はすでに「聖なる者（聖徒）」（ローマ 1：7、Ⅰコリント 1：2 他）
＝神によって選び分かたれ、神のものとされ、神の子とされている。
聖化：すでにそうである者にますます変えられていく。
主イエスは「潔め主」であり、主イエスが遣わしてくださる聖霊が潔めてくださる。

**「御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。」**（Ⅰヨハネ 3：2）
神の国で　御子をありのままに見る　→　御子に似た者となる
この世で　御子をおぼろげに見ている　→　御子に似せられていく
御言葉によって、**「目の前に、イエス・キリストが十字架につけられた姿ではっきり示され」**ている（ガラテヤ 3：1）。
この**「キリストがわたしたちの内に生きておられる」**（同 2：20）。

御言葉を聞くことで、御言葉のようになる。
主イエスを見つめることで、主イエスのようになる。

**3. 祈りを通して変えられる**（マタイ 26：36～46）
受難週の木曜日。最後の晩餐を終えた夜。翌朝には十字架にかけられる。
主イエスは死ぬばかりに悲しんでおられる。わたしたちの罪に。（37、38）
主イエスはわたしたちとどこまでも深く結びついてくださり、わたしたちと一つとなられる。
罪人として、神の裁きと永遠の滅びに直面しておられる。
**「この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」**（39）
←わたしたちこそ、この祈りを必死になって祈らなければならない。
　この祈りを祈ることさえ知らず、眠っている。神に対しても罪に対しても。
　主イエスはわたしたちの場所に来て、わたしたちに代わってこの祈りを祈られた。
**「心は燃えても（霊は前に向かっても）、肉体は弱い。」**（41）
←体だけでない。体も心も。わたしたち自身のものは弱い。
　だから、目を覚まして祈る。自分の力によってではなく、主イエスの霊によって。
祈りを経て、主イエスのお姿は変わっている。
**「立て、行こう。わたしを裏切る者が来た。」**（46）
←祈り終えたとき、祈り始めたときとは違った姿になる。
**「あなたの御心が行われますように。」**（42）
←**「わたしたちは御旨を行い、耐え忍び、生きるにも死ぬるにも、善にも悪にも、あらゆる時にわたしたちの意志が粉砕され、捨てられ、滅ぼされるために、主の御霊によって強められますように。」（マルティン・ルター「ドイツミサ」）**
←祈りが成熟していかなければならない。幼子の祈りから主の祈りへ。
　自分の願いがかなうよりも、主の御心が実現する方が幸いだと、本気で信じる。
　主イエスの心を受け取り、主イエスの心とわたしの心が混ざり合い、一つになる。
←「主の御名によって」祈る（ヨハネ 14：13、15：16、16：23～24）。
　主イエスが先に祈っておられる。主イエスと共に祈る。
　「主の御名によって」＝わたしたちの祈りの末尾に主イエスが署名してくださる。
　　ご自身の祈りとし、ご自身の祈りで包んでくださる。

**〇祈り**
主よ、あなたが教えてくださった祈りを、まだ一度も祈ることができません。わたしたちに祈ることを教えてください。わたしたちを心の底から新しくしてください。
アーメン

宮島聖会 2023
主題「信仰によって生きる」（ローマの信徒への手紙 1 章 17 節）
聖書**「福音には、神の義が啓示されていますが、それは、始めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。『正しい者は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。」**

（ローマの信徒への手紙 1 章 17 節）

# 聖会Ⅳ「とどまり、実を結ぶ」

（ヨハネによる福音書 15 章 1～10 節）

## ⑤とどまる

### 1. ほんとうの幸い（詩編 1 編）

「ああ、なんと幸いだろう。なんて幸せだろう。」
←どんな場合に対してこう言うか？
友との交わり？　健康の回復？　仕事の成功？　おいしい食事？　娯楽？
願いがかなうこと？
聖書は、わたしたちが知らないでいる幸いを告げる。
**「いかに幸いなことか。主の教えを愛し、その教えを昼も夜も口ずさむ人。」**（1、2）
「御言葉に従わねばならない」というのでない。
神の言葉を喜び、何度でも思い出し、うれしくて口ずさんでいる。
魂に向かって語りかけられ、その言葉に応答し、生きた交わりが生まれている。
そこに、命が潤い、神の祝福が回復される幸いがある。
**「その人は流れのほとりに植えられた木。**
**時が巡り来れば実を結び、葉もしおれることがない。」**（3）
「植えられた」を「移し植えられた」と訳す人もいる（関根正雄）。
乾ききり、すべてが枯れ果てている荒れ野を生きている。命が枯れ果てていく。
しかし、見えないところに水の流れがある。
そのほとりに移し植えられた。水を吸い上げて、枝先まで命がみなぎっている。
（エレミヤ 17：7、8 も参照）

### 2. 主はまことのぶどうの木（ヨハネ 15：1～10）

ところが、わたしたちは神の言葉を聞けない。命の水の流れにまで根を伸ばせない。
枯れていくしかない。
そのようなわたしたちのところに主イエスが来てくださった。
流れのほとりの木になれないわたしたちに代わって、ご自身が木となられた。
主イエスはまことのぶどうの木となり、そして言われる。

**「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。」**（4）

「つながる」「とどまる」「内にある」←元は同じ語（新改訳 2017 はすべて「とどまる」）
＝「メノー」ごく日常的な言葉。「とどまる、離れずにいる、宿る」

**「あなたがたがわたしにつながっており、**
**わたしの言葉があなたがたの内にいつもある（とどまっている）ならば…」**（7）
**「わたしの愛にとどまりなさい。」**（9）
御言葉が自分の内にとどまるようにする。自分が御言葉の内にとどまるようにする。
＝主イエスにつながっている。

神の言葉、神の語りかけ　→突き詰めると、何とお語りになっている？
突き詰めると、それは十字架の言葉。
**「イエスは世にいる弟子たちを愛して、最後まで愛し抜かれた。」**（ヨハネ 13：1）
神の言葉は愛の言葉。主イエスは神の愛の言葉そのもの。
わたしたちの命を、ご自分の命よりも大事だと言ってくださった。
極みまで愛して十字架にかかり、十字架で愛を成し遂げられた（ヨハネ 19：30）。

**「愛する者の言葉が、一日中あなたにつきまとって離れないように、聖書の言葉は絶えずあなたのうちに響きを残し、働くべきなのである。愛する者の言葉をいちいち分析したりせずに、語られたままに受け入れるであろうように、聖書の言葉を取り上げ、マリアがしたと同じように、自分の心のうちに、その言葉が働くようにすればよい。それがすべてである。」**
**（ディートリヒ・ボンヘッファー「日ごとの黙想の手引き」）**

**3. 教会は「御言葉の被造物」**
主イエスはぶどうの木、わたしたちはその枝。
主イエスは体、わたしたちはその部分（肢体）。　＝教会（Ｉコリント 12 章）
教会は御言葉によって造られ、生かされている。「御言葉の被造物」（ルター）。

どうしたら主イエスの言葉にとどまることができるのか？
それを端的に語る御言葉がある。
**「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。」**（コロサイ 3:16）
どうしたらキリストの言葉が心に宿るようになるのかも告げられている。
**「知恵を尽くして互いに教え、諭し合い（なさい）」**
説教や証しによって、語り合いによって。
また、問題に直面したときにこそ、御言葉を告げて訓戒することによって。

そのように言葉で御言葉を届け合うことだけではない。さらに勧めが続く。
**「詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。」**
賛美の歌を歌うことによって！　感謝することによって！
言葉はメロディーと結びついて、心の深いところにまで届き、そこにとどまる。
**「人の口からは、心にあふれていることが出てくるのである。」**（マタイ 12：34）
→わたしたちの口から思わず出てくるのは、どのような言葉か。
　わたしたちが知らないで口ずさんでしまう歌は、どのような歌か。
　わたしたちの心に御言葉があふれているのか。
　それとも別の思いが満たしているのか。

## ⑥実を結ぶ

### 1. 実を結ぶのは聖霊

命令されているのではなく、約束が与えられている。
**「ときが巡り来れば実を結（ぶ）」**（詩編 1：3）
神がその時を定めていてくださる。その時は必ず来る。そしてその時には実を結ぶ。
**「干ばつの年にも憂いがなく、実を結ぶことをやめない。」**（エレミヤ 17：8）
**「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」**（ヨハネ 15：5）

約束が与えられているだけではない。
実を結ぶのは、実はわたしたちではなく、聖霊。
**「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」**（ガラテヤ 5：22）

### 2. 御言葉を生きる

**「御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。」**（ヤコブ 1：22）
←わたしたちは御言葉を喜んで聞いている。
　そして、「聞くだけで終わる者」になってしまっている。
　そこに「欺き」がある。自分を欺いている。自分に求められてはいないと。
**「主イエス・キリストよ。あなたに魅了されるだけでよしとし、まどろんでしまうとき、わたしたちを目覚めさせてください。あなたに従っていく代わりに、ただ」あなたに感嘆していようとする思い違いから、わたしたちを助けだしてください。」**
**（セーレン・キェルケゴール）**

マリアの祈り。
**「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように。」**（ルカ 1：38）

わたしの身が、わたしの存在が、御言葉のようになる。御言葉化する。
御言葉に聞くことによって、御言葉のようになる。
主イエスを見つめることによって、主イエスに似た者とされる。
神の言葉は、突き詰めれば、十字架の言葉。愛の言葉。
御言葉を生きる＝赦された者として、赦しながら生きる。
　　愛されている者として、愛しながら生きる。
わたしたちは自分では赦すことも、愛することもできない。
←ここで思い違いをすると、キリスト教的なヒューマニズムに陥る。
十字架のお苦しみによって赦されている。
命を全部注ぎきるまで愛し通されている。
**「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」**（ヨハネ 13：34、15：12）
→主イエスが愛してくださった。
　「あなたにもできるやり方で」ではなく、「わたしがしたように」。
　神の聖なる愛で。
　＝主イエスの愛は、愛のないわたしたちを愛する者に造り変えてしまう。

**3. 御言葉に生かされる喜び**

御言葉を受け取ることに心を集めたらいい。
→神に祈りと賛美を献げる。　　神を喜ぶ。
　兄弟姉妹の足を洗い、教会を造り上げる。　愛を喜ぶ。
　この世に向かってキリストを証しする。　　伝道を喜ぶ。

**〇祈り**

主よ、わからせてください。わたしたちが知っているよりも、あなたはもっと近くにおられ、わたしたちと一つになっていてくださいます。御心のままにわたしたちを用いてください。
アーメン